令和 7 年

全員協議会記録

令和 7 年 3 月 1 7 日

和 光 市 議 会

全 員 協 議 会 記 録

◇開会日時 令和7年3月17日（月曜日）
午後 1時23分 開会 午後 3時25分 閉会

◇開催場所 全員協議会室

◇出席議員 17名

議 長	安 保 友 博 議員	副議長	小 嶋 智 子 議員
1 番	松 永 靖 恵 議員	4 番	吉 田 活 世 議員
5 番	齋 藤 幸 子 議員	6 番	伊 藤 妙 子 議員
7 番	渡 邊 竜 幸 議員	8 番	片 山 義 久 議員
10 番	萩 原 圭 一 議員	11 番	赤 松 祐 造 議員
12 番	待 鳥 美 光 議員	13 番	菅 原 満 議員
14 番	鎌 田 泰 春 議員	15 番	岩 澤 侑 生 議員
16 番	富 澤 啓 二 議員	17 番	内 山 恵 子 議員
18 番	吉 田 武 司 議員		

◇欠席議員 なし

◇出席説明員

市 長	柴 崎 光 子	企 画 部 長	大 野 久 芳
総 務 部 長	松 戸 克 彦	市 民 環 境 部 長	加 山 卓 司
子 ども あ ん し ん 部 長	渡 辺 正 成		
企 画 部 審 議 監 兼 次 長 兼 秘 書 広 報 課 長			茂 呂 あ か ね
総 務 部 次 長 兼 総 務 課 長	渡 部 剛		
市 民 環 境 部 次 長 兼 環 境 課 長			福 島 達 也
子 ども あ ん し ん 部 次 長 兼 子 ども 家 庭 支 援 課 長			平 川 京 子
ネ ウ ボ ラ 課 長	武 田 珠 美	保 育 サ ポ ー ト 課 長	徳 倉 義 幸
保 育 施 設 課 長	上 原 健 二	環 境 課 主 幹 兼 課 長 補 佐	小 賀 坂 真 志
子 ども 家 庭 支 援 課 長 補 佐	堀 江 和 美	子 ども 家 庭 支 援 課 副 主 幹	富 澤 崇

◇事務局職員

議会事務局長 亀井義和

議事課長 工藤宏

議事課長補佐 平川一朗

主任 小林巖

主任 本間修

◇本日の会議に付した案件

和光市こども計画（案）について

和光市ゼロカーボンシティ宣言について

午後 1時23分 開会

○安保友博議長 ただいまから全員協議会を開催します。

初めに、柴崎市長より挨拶をお願いいたします。

柴崎市長。

○柴崎市長 皆様こんにちは。

議員の皆様におかれましては、日頃より市政運営に関しまして格別の御理解と御協力を賜りまして、どうもありがとうございます。

また、本日は議会開会中の御多用の中、全員協議会を開催いただきましてどうもありがとうございます。重ねて感謝を申し上げます。

本日は、子どもあんしん部から、和光市こども計画（案）について、市民環境部から、和光市ゼロカーボンシティ宣言について、説明をさせていただきます。

まず、こども計画（案）につきましては、本年1月8日から28日まで行いましたパブリックコメント、説明会等及び子ども・子育て支援会議における議論を踏まえ、こども計画（案）の説明をさせていただきます。

次に、和光市ゼロカーボンシティ宣言につきましては、市民、事業者、行政が一体となって2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティを目指し、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めていくことを市が宣言するものです。

それでは、詳細につきまして担当から説明しますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○安保友博議長 ここで、市長は公務のため退席します。

休憩します。（午後 1時25分 休憩）

再開します。（午後 1時26分 再開）

本日の案件は、和光市こども計画（案）について、和光市ゼロカーボンシティ宣言についての2件です。

初めに、和光市こども計画（案）について説明願います。

渡辺子どもあんしん部長。

○渡辺子どもあんしん部長 それでは、和光市こども計画（案）について御説明させていただきます。

本年1月9日に開催していただきました全員協議会において説明申し上げました和光市こども計画（案）につきましては、1月8日から1月28日までの21日間に実施したパブリックコメント手続に併せまして、住民説明会、こども意見募集、こども意見交換会及び高校生意見交換会を開催し、広く意見募集を行いました。これらの取組により聴取した御意見、1月9日開催の全員協議会においていただいた御意見を踏まえ、子ども・子育て支援会議において最終的な審議を経まして、一部意見を反映し、改めて和光市こども計画（案）を取りまとめております。

それでは、詳細な内容につきましては、子ども家庭支援課長から説明申し上げます。

○安保友博議長 平川子ども家庭支援課長。

○平川子ども家庭支援課長 それでは、和光市こども計画（案）についての資料をお手元をお願いいたします。

1月に御説明させていただきました和光市こども計画（案）について、その後、パブリックコメントやこども意見交換会などを開催し、去る2月26日、子ども・子育て支援会議における最終議論を経ましたので、経過及び結果を御説明いたします。

3ページ、令和7年1月以降の策定経過を御覧ください。

1月8日から28日までの間、和光市こども計画（案）パブリックコメントを実施し、38名から122件の御意見をいただきました。今回、広報わこう特集記事、ホームページ、公式LINE、小・中学校保護者へのさくらメールなど、幅広く参加を呼びかけたほか、方法では紙媒体と電子申請を活用いたしました。

パブリックコメントは年齢制限のない意見提出の手続であること、今回はこども計画（案）であることを踏まえ、案内文に振り仮名表記を行って、子供への周知も行ったところ、小学生からも御意見をいただきました。また、同じ期間にパブリックコメントではなく、無記名で自由なこども意見募集を行ったところ、56名から御意見をいただきました。

1月15、16、18日に、下新倉児童館、南児童館、わびあ（総合児童センター）でこども意見交換会を行い、合計56名の子供たちに参加いただきました。

1月18、21、22日に、わびあ（総合児童センター）、北と南の子育て世代包括支援センターで住民説明会を行い、39名の方に参加いただきました。

1月24日に、和光南特別支援学校での代表で高校生4名と意見交換を行いました。

次のページを御覧ください。

2月15日に開催したこどもが行ける場所まつりでは、子どもの未来をつくるアンケートを実施、2月26日の第6回子ども・子育て支援会議では、微調整を会長一任とし、計画（案）が承認され、議論は終了し、来る3月27日に子ども・子育て支援会議から市長へ答申予定となっております。

現在、計画（案）の最終作業の大詰めを迎え、文言、レイアウトなど最終修正、調整をしており、資料としてお示しができる状況ではないことについて、申し訳ございませんが、何とぞ御理解いただけますようお願い申し上げます。

前後しますが、3月14日に和光国際高校の生徒と、こども計画（案）や子供の人権保障の周知啓発を含めた意見交換を行いました。和光高校は日程が合わず、パブリックコメントに御意見をいただきました。また、和光特別支援学校も日程が合わず、日程調整中となっております。

続きまして、5ページ、パブリックコメントでいただいた意見について説明いたします。

時間の都合上全ての説明が難しいため、全員協議会資料別紙として、パブリックコメントの意見の概要と市の見解をお配りいたしましたので、後ほど御覧いただければと思います。この別紙は、全員協議会用に作成した資料であり、第6回子ども・子育て支援会議の資料のパブリ

ックコメントの意見の概要と市の見解（案）とは異なります。こちらの点も御了承いただけますようお願いいたします。

先ほど申しあげました122件の御意見を拝読し、市の考え方の区分のとおり、二重丸はございませんが、意見の一部を反映し、案を修正した丸は9件、計画に記載されているため修正はしなかった三角1は71件、修正しなかった三角2は11件、その他の四角は31件とさせていただきます。ここでは、意見を一部反映し、案を修正した9件の概要を申し上げます。

1段目、こどもの権利に関する意見が5件ございました。

子供の権利について、社会や大人の知識が不足していることが問題である。子供の意見を聞く仕組みが足りない。子供が生活する場所や意見を聞きに行くことが重要。心ない大人からの子育て家庭や子供に対する攻撃があることを記載してはいかがかなどの御意見をいただきました。

そこで、基本施策1の1、こども・若者が意見を表明しやすい環境づくりの主な取組、ワークショップの説明において、修正後アンダーラインのとおり、「多様な背景を持つこどもたちがいることを配慮し」と、「こどもの意見聴取やアドボケイトの人材育成を行います。」と修正、また基本施策3の2、こどもの自主性と社会性を育む環境づくりの施策の方向性で、修正後アンダーラインの「こどもも大人も」を加筆修正いたしました。

意見の発信や言語化等の難しい環境に置かれる子供の意見も市内団体や施設等の協力を得ながら足を運び聴取してまいることを考えております。

子供が利害関係なく自由に意見を表現できる場所の設定や多様な子供たちが参加したくなるよう、関係性と対話を大切にしながら実施してまいります。

2段目、困難を抱えるこどもに関する御意見がございました。

発達障害の子供への支援について、基本施策4の2、多様なニーズを有する子育て家庭への支援強化において、子育て家庭への支援はあるが、困難を抱えた子供への支援として取組が必要ではないかとの御意見でした。意見のとおり、生きづらさを感じていたりしていても子供自身が気づいていない場合も想定され、大人が気づき寄り添いながら支援をすることが重要であるため、基本施策1の3、多様な背景を持つこども・若者を大人が受け止める地域づくりの施策の方向性において、修正後アンダーラインのとおり、「多様な悩みや本人の気がついていない困難に寄り添いながら」を加筆修正いたしました。発達障害の早期発見や支援、学校関係者などを含めた理解について、関係機関と協議し、具体的な施策を検討してまいりたいと考えております。

3段目、こどもを守る地域づくりに関する御意見がございました。

基本施策2の2の犯罪などから子供を守る考え方に、虐待、性犯罪、各種ハラスメントなどから守るといった詳細な記載の御提案がありました。犯罪等の中には、虐待や各種ハラスメントなど、近年こども・若者が巻き込まれやすいトラブルという意味も含まれておりますが、より市民の皆様に分かりやすいように、基本方針に子供を守るセーフティーネットの強化支援の

説明文を修正後アンダーラインのとおり、「また、近年子ども・若者が巻き込まれる犯罪やハラスメントなどのトラブルも増加しています」と加筆修正いたしました。

4段目、子どもの居場所に関する御意見がございました。

休み中の図書館や公民館の会議室の開放に、ありがたいとの御意見をいただくとともに、公民館や総合体育館の開放を検討してほしいとの意見がございました。総合体育館のPRも兼ねまして、基本施策3の1、子ども・若者の居場所づくりの主な取組、総合体育館・アーバンアクア公園に修正後アンダーラインのとおり、「なお、総合体育館では、パークギャラリーは常時開放し、学習スペースを提供しています」と加筆修正いたしました。

5段目、子どものスポーツに関する御意見がございました。

子供施策にスポーツ促進がほとんどないとの御指摘、運動や外遊びの効果、体育館の利用促進のための空調設備導入の意見がございました。スポーツに関する取組は、他の施策には記載していましたが、基本施策3の3、子どもの心と体を育む健康づくりにはありませんでしたので、ここの施策の方向性に、「健康な体をつくられるようライフステージに応じたスポーツ環境の充実に取り組みます。具体的な取組はスポーツ推進計画において推進していきます」と加筆修正いたしました。

以上がパブリックコメントを反映した概要となります。

続きまして、6ページ、前回の全員協議会でいただいた大きく4点の御意見についての対応を御説明いたします。

1点目、障害をお持ちのこどもの保護者の意見聴取は今後考えていくのですかとの御意見をいただいております。

御指摘のとおり、子ども計画は子供の総合的な計画であることから、障害をお持ちの子供の保護者にも広く御意見をいただく必要があると認識しております。実際、既に子ども・子育て支援会議や医療的ケア児等支援協議会にも障害児団体や障害をお持ちのこどもの保護者の方に参画していただいておりますので、計画の推進体制において修正後アンダーラインのとおり、「困難を抱えた多様な子どもや子育て家庭の意見も広く聴取することが必要です」、後段に、「本計画の基本理念や基本目標を共有し、基本方針に基づく各施策に沿った事業を効果的に推進していきます」と加筆修正いたしました。

2点目、子ども・若者基本条例の制定は計画に入れないのでしょうかとの御意見をいただいております。

このたびのパブリックコメント、住民説明会、子ども意見交換会などの子供や大人の方からの御意見から、子供の人権について周知啓発、意識向上、機運の醸成をしなければならないと改めて痛感いたしました。若者を含めた子供の今と未来、子育て家庭の今と未来をウェルビーイングにするため、子供の人権保障は当たり前の子どもまんなか和光にしたい、それには子ども・若者ととも、（仮称）の子ども権利条例の制定を目指してまいりたいと考えました。そこで、第2節の基本的な視点、基本方針1、子ども・若者の意見表明、参画、基本施策1の1、

こども・若者の意見を表明しやすい環境づくりの主な取組のこども・若者部会に修正後のように記載をいたしました。

次に、若者二十歳から30歳未満までのアンケートなどの調査をどのような形ですのでしょうかとの御意見につきましては、これまでも計画策定に当たっては調査内容を子ども・子育て支援会議の議論を経てから実施しております。若者に対するアンケート調査も同様に、目的により効果的な手法が異なる場合も想定されますので、子ども・子育て支援会議等での議論を踏まえ検討し、適宜実施してまいりたいと考えております。

そして、計画名の御意見でございますが、2月26日の子ども・子育て支援会議において、今期計画は、まずは子供を中核に据えた上で子供から地続きの若者施策として位置づけたところであり、今期はこども計画として策定し、今後、若者等と対話を重ね、計画に基づき施策を推進し、その中で、組織体制を含め様々な課題が出てくると思われるので、それらを総合的に検討する際に、計画の名称も含めて検討することが望ましいとの結論を得たところでございます。

市としては、本会議の結論に基づき、計画名は和光市こども計画とする方針です。したがって、今期計画期間内では、部会等の議論によっては、必要に応じて愛称の検討を想定しております。

以上が全員協議会でいただきました意見の対応でございます。

続きまして、別紙パブリックコメントの意見の概要と市の見解を御覧ください。

まず、先ほど言いました小学生の意見は、14ページの90番、15ページの91番となっております。

14ページの90番、15ページの91番は、小学生に分かりやすい言葉での回答に努めました。

次にページをめくっていただきまして、カラー刷りの部分が出てくると思います。カラー刷りのところまでページをめくっていただきまして、そこから3枚ほど戻していただきますと、こどもの意見募集結果と回答（案）というページが出てきます。

こどもの意見募集結果と回答（案）について御説明いたします。

自由な意見として無記名で出せるこども意見箱の実施期間、提出者、設置場所等の概要は御覧のとおりです。こども計画概要版の（案）を意見箱を設置した9か所に大きく提示し、意見書を意見箱に入れていただく形で実施いたしました。

未就学児から高校生まで、幅広い子供から御意見をいただきました。こども計画概要版について、よく分かった、分かったが合わせて71%で、分かりやすい、子供のことを考えてくれていると意見があった一方、漢字が多くて分かりにくいという意見や漫画にしたら分かりやすいという提案もいただきましたので、今後に活かしていきたいと考えております。

また、大学生も児童館を使えるようにしてほしいという意見もあり、若者の居場所づくりの課題を再確認したところでございます。

また、意見を言っても何もしてくれないのではないかと思うとの声もあり、子供の意見を聞き施策に反映し、フィードバックすることの重要性、子供の自己肯定感の向上へつなげる必要

性を感じたところでございます。

これらの意見に対する回答は、今月中に意見箱を設置した施設に掲示し、フィードバックをする予定でございます。

続きまして、カラーのページにお進みいただきますようお願いします。

和光市こども計画（案）こども意見交換会報告書となります。

これは、子供から直接計画案の意見を聞くために実施いたしました。こども計画の子供向け概要版を用いて、子供の権利の重要性とこども計画には自分たちに関わることが書かれているという説明をいたしました。

1枚めくっていただき、タイトルに下新倉児童館、1の15というページを御覧ください。

下新倉児童館では、学童にももっと来てほしい、こうやって話をしたいという意見、実施した意見交換がとても楽しかったという声をいただきました。

子供の権利を知っているかと聞いたところ、知らないというお答えでした。

次のページ、南児童館を御覧ください。

好きな場所について聞くと、地域ならではの特性のある場所が出てきました。こども計画についてどう思うか聞くと、大変そうだけれどもいいと思う。実現できたらすごい。またこうやって意見を聞いてほしいといった声がありました。

続いて、わびあでは、午前、午後の2回実施し、やってみたいボランティアを聞くと、中学生から学童の手伝いが挙がり、学童での経験が子供たちにとって印象深いものになっているのだなというふうに思っております。

どんなまちになったら楽しいかと聞くと、アンケートと共通し中学生から多く出たのは、サッカーコートやバスケットゴールがあるまちという結果でした。

次のページ、和光南特別支援学校のページを御覧ください。

高校生からもバスケットボールができる場所が欲しいとの意見をいただいております。また、こども計画をどう思うか聞くと、子供のことを考えてくれてありがたい。自分たちのことを考えて書かれている計画だとよく分かったと言っていました。

和光市内にどういう場所があるといいかを聞くと、多世代が自由に楽しく好きなように遊べる場所と、多世代の市民を考えた意見や、高校生の居場所として映画館やファストフードやカフェといった場所が出てきました。

こども計画の名称では、高校生以上も対象という話の中で、名前は違和感なく、自分たちのことがこども計画に書かれていることは理解できるとの意見でした。なお、和光国際高校の生徒も同意見でした。

以上がこども意見募集及び意見交換会の報告となります。

今回のこども計画の策定に際し、私どもは様々な手法で子供の意見を聞き、その意見の対応を子供たちにフィードバックするなど、子供たちとの丁寧な対話を心がけ、実施してまいりました。子供たちに意見を聞きっぱなしにせず、しっかり返すことが重要で、それが子供たちの

自己肯定感の向上や社会参画につながっていくと考えております。

市の施策において、これまで大人が子供にとっていいことだと思い決めてきたことも、実は子供に聞いたら、子供の思いとは違うことがあるということが分かります。子供の意見を聞くという重要性を庁舎内で推進するとともに、市内の子供に関する活動団体や施設、学校、地域の方々からも御協力をいただき、そして一緒にまち全体で子供を含めた対話をし、子供の意見も反映した政策や様々な事業につなげるといった文化を形成し、子供の人権が真に保障されるまちにしていきたいと考えております。

以上、こども計画の説明を終わります。

○安保友博議長 以上で説明は終了しました。

質疑がある方は挙手願います。

片山議員。

○片山義久議員 今回のパブリックコメントでこの計画には反映されないけれども、例えば通学路の問題とか学校の建て替えの問題とか、いろいろ子供たちから貴重な意見が出ていると思うんですが、これらは担当部課のほうにも伝わっているのでしょうか。

○安保友博議長 平川子ども家庭支援課長。

○平川子ども家庭支援課長 その意見等を共有してまいりたいと考えております。

○安保友博議長 齋藤議員。

○齋藤幸子議員 ここに参加された児童、生徒は女の子のほうが多かったんですか。

○安保友博議長 平川子ども家庭支援課長。

○平川子ども家庭支援課長 場所にもよるんですけども、どちらかというと、女の子が多かったかなと。ただ、男の子も多く参加していただきました。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 前回、子ども・若者支援会議とか、こども計画の間に1つの言葉があったけれど、今日は説明されてすごくいいなと言うんだけど、何も聞かずに和光市こども計画とだけ聞くと、子供を増やすための計画なのか、1行だけで聞いた場合、そういうような発想が出てくるような気がするんですが、これを否定するわけではないけれども。下を見ると、子供あんしん、子供家庭支援課だから、これを読むと大体意味が、こんなことをやっているんだと分かるけれども、こども計画だけだと、じゃ、これに代わる大人計画、高齢者計画、こども計画の説明が四角い中でこんなことをやるんだよというフレーズがないと、和光市こども計画という下に3行くらいフレーズをつけておかないと、相当説明していかないと、今日ほど熱心に説明されたら分かるけれども、何も説明されずにこの表紙1つで分かるような、何か作られたらいいなと思うんだけど。

○安保友博議長 赤松議員、これ、計画の名称なので、ほかの計画と一緒に、名称はこれですよということが示されているものなので。質問の趣旨をお願いします。

赤松議員。

○赤松祐造議員 趣旨は、中身を書いていることはとてもいいことなので、これが市民全員に広がっていくような説明、フレーズを考えたほうがいいのではないのでしょうかということです。

○安保友博議長 平川子ども家庭支援課長。

○平川子ども家庭支援課長 今後、この計画（案）を策定した暁には、地域団体ですとか市民団体の方々にも丁寧に説明して、広く御理解いただいて、一緒に子供たち、子育て家庭、そして地域の方と一緒に、こどもまんなか社会といったところをつくっていききたいというふうに御説明してまいりたいと思っております。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 工夫して、中身はすごくいいことなので、こどもまんなか社会をつくりたいということだから、そういうのも書かれたら私はいいと思います。

○安保友博議長 ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」という声あり〕

なければ、以上にて質疑を終結します。

休憩します。（午後 1時56分 休憩）

再開します。（午後 1時57分 再開）

次に、和光市ゼロカーボンシティ宣言について説明願います。

加山市民環境部長。

○加山市民環境部長 私のほうからは、和光市ゼロカーボンシティ宣言について説明させていただきます。

環境省の発表では、令和6年12月27日現在で、全国約1,700自治体のうち6割強の1,127自治体において、また埼玉県内におきましては63市町村のうち約8割に当たります50市町村で同様の宣言を行っております。当市におきましても、第3次和光市環境基本計画内の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に二酸化炭素の削減を明記していることから、この取組を加速させるために宣言を行うものです。

詳細につきましては、市民環境部次長兼環境課長の福島より説明させていただきます。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 それでは、御説明します。

地球温暖化対策は世界的な気候変動への対応が求められており、国際社会では、パリ協定に基づき、各国が二酸化炭素の削減目標を設定し、2050年までにカーボンニュートラルを達成することが掲げられております。日本国内においても、政府は2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。また、埼玉県においても、カーボンニュートラルの推進が行われており、脱炭素社会の実現を目指し、県民、事業者に向けた様々な支援策や制度が展開されております。

このような流れの中で、当市といたしましても、第3次和光市環境基本計画の中間見直しを令和8年度に迎えるその前に、脱炭素社会の実現に向けた取組を明確にし、気候変動対策を加

速させていく必要があることから、このタイミングでゼロカーボンシティ宣言を行うものです。
説明は以上になります。

○安保友博議長 以上で説明が終了しました。

質疑のある方は挙手願います。

鎌田議員。

○鎌田泰春議員 和光市ゼロカーボンシティ宣言は2050年までにというところなんですけれども、様々な、例えば火葬場だったり、あとはごみ処理施設もこれから建設されて、私はこれ二酸化炭素排出量を実質ゼロにするというのが今ある計画の段階をそのまま従って進んでいたら、これは実質的に難しいのではないかというふうに思うんですけれども、それはちゃんとした試算の下にこれが計画されているのか、改めてお伺いできますでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 環境省で公表しております自治体の排出量カルテ、CO₂の排出量の現状把握というものがあつてなんですけれども、その中で、先ほどおっしゃられたように廃棄物処理施設、いわゆる清掃センターで排出しているCO₂というのは、和光市全体の5%程度になります。今、主立って出ているものは家庭部門が33%、その他の業務部門というものが36%あります。その他運輸部門が21%で、産業部門が7%というような数値なんですけれども、そういったところの排出量の中でも家庭の中で電気が一番多く排出されているんですが、よくほかの市町村でもありがちなんですけれども、省エネ家電の買替え補助とかということを普及して、家庭のCO₂の排出を減らす。それと、その他業務部門というのは和光市は研究機関、学術開発研究機関が大半のCO₂の排出を占めております。どこを意味するかというと、ほとんどが理化学研究所になるんですけれども、その理化学研究所のほうで、実験用の施設であつたりコンピュータから出ているCO₂の排出量は多くありますので、今、理化学研究所も事業所としてCO₂の排出に本気で取り組んでいくというようなことが示されましたので、そちらとともに和光市もそれに対する支援をできる限りした上で、排出量を減らしていきたいと考えております。

○安保友博議長 鎌田議員。

○鎌田泰春議員 排出量を減らしていきたいというのは、皆さん全員共通して思っていることなのではないかなと思っています。ただ、この排出量を2050年までにゼロカーボンにするという宣言を持ってくる以上、それをどういうふうに達成するかというのが見えてこなければ、これは私は無責任だろうというふうに思うんです。

先ほどありましたように、5%は清掃センターから出ていますとか、様々あると思うんですけれども、それをどうやってゼロにするかということの根拠を教えてくださいたいです。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 和光市内で排出するCO₂だけをゼロにするとかということは、事実上無理だと思います。交通量、自動車の排出量とかもあるので、今考えていますのは、先ほど説明がなかったんですけれども、今、相互交流を行っております埼玉県内の自治体、先日発表があり

ましたけれども、小川町、寄居町、東秩父村といった森林をたくさん保有しているところの森林の保護等を和光市が行うことによる、今よく行われているカーボンオフセット事業と言われるものがあるんですけども、こういったものの実現に向けた協議を今後進めてまいりたいと考えております。

○安保友博議長 鎌田議員。

○鎌田泰春議員 オフセットの話とかはもう今後進めていくというところで、まだ現状行われていないのに対して、ゼロカーボンシティを今宣言することは非常に難しいのではないかとと思うんですが、いかがでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今の段階でどこまでの面積でどのくらいやるかということの試算がまだできていないものですから、難しいことは分かっているんですけども、ただ、ここで立ち止まってもカーボンの減少はなかなか進んでいかないと思っているので、それを先ほどの説明にも入れたんですけども、加速させたいという思いの中で、この宣言をまず起爆剤というきっかけにして、進めていきたいと考えております。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 これは和光市環境づくり市民会議でこのことについてもいろいろ議論は観客含めてされてきたんですか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 環境づくり市民会議の中でゼロカーボンについてのお話を直接してはいないんですけども、先日、環境市民会議の代表の方もメンバーの中に入っている環境審議会のほうでお話させていただきまして、審議会の中では、了承というか、やっていく方向というのは承認されております。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 これは宣言した場合、所管は環境課ですね。ほかのセクション、私は3月定例会で質問したんですけども、例えば和光市の小・中学校の体育館にエアコンを入れますよね。それを兼ねて断熱材を入れたり、できる限りしたらと提案したんですけども、今回、そういうのが起きたときに、それは全部建設当局と教育委員会がやるんでしょうけれども、そういうところにこの力が及んで、それを検討してされるようになるのかどうか。所管がそこにあって、上が上位になりますよね。今、具体的にになると体育館に電気を使う、そうすると、光を断熱するとかそういうのをしなければいけないと思うんですけども、そういうところにアドバイスはできるようになるのかどうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 ゼロカーボンの宣言自体が市全体で取り組むべきものだと思いますし、地球温暖化対策の実行計画（地域施策編）というのは環境課で所管しておりますが、事務事業編に関しましては、総務課であったり資産戦略課のほうで、庁舎のCO₂削減に取り組む必要

があると思っています。ですので、これによって全庁的な取組として行っていききたいと思っていますし、既に資産戦略課のほうとも話をし、庁用車のEV化とかという話も、まだ実現には至らないようですが、そういった下話等はしていますので、積極的にそういう全庁体制で取り組んでいけるようにしていきたいと考えています。

○安保友博議長 富澤議員。

○富澤啓二議員 和光市ゼロカーボンシティ宣言、大変評価をいたしますが、これ、施政方針では盛り込まれておりませんでした。例えば近隣市でしたら、富士見市、志木市、大変重要な宣言ですので、施政方針に入れておりますが、たまたま間に合わなかったのでしょうか。急に出てきた話なのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 先ほどもちょっとお話ししたんですけれども、そもそも理化学研究所のほうと一緒に取り組みたいというようなお話をずっとしてはいたのですが、その話がなかなかきちんとした着地点が見えない状況が続いていましたので、施政方針には反映できずに、こここのころでようやく落ち着いて着地点が見えたので、ここでの宣言となっております。

○安保友博議長 片山議員。

○片山義久議員 この宣言を行うことで、例えばこれから和光市がゼロカーボンに向けた取組を行うときに、国からの補助が得やすくなるですとか、そういうメリットはあるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 これを宣言することで、まず環境省のほうに和光市で宣言しましたという登録がされますので、やはり脱炭素に向けた国の補助の採択を受けやすくなるということがあります。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 さきの議会で富澤議員が樹皮率が非常に落ちていると。これから樹皮率を上げたい、緑を残そうということですが、そういうことにもこれは、この力を借りるわけではないんですけれども、目標に近づけるというので、それと環境基本計画の見直しの中でも大きく書き込まれる計画はもうあるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今後この環境基本計画の見直しが行われる中で、きちんとこういったものを明記して、表にも出て、和光市はこういうふうなものを目指しているということが明確にできると考えております。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 この計画、根本として市民環境部のほうがやりたい、必要だから進めるという感じで始まった話なののでしょうか。どなたがこれをやろうと考えたのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 先ほど部長の説明でもあったんですけれども、近隣の市町村がこの宣言を行

っておりますし、いろいろ先行事例が見えてくる中で、ここで和光市、県内の市町村の市としては、あとは和光市ともう1市の、2市だけしか宣言していないところはありませんので、そこに遅れることなく、同じような姿勢を向いてやっていきたいなというところで、うちのほうからの提案となります。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 公的な会議もしくは計画（案）とか検討段階で、どのくらい前からゼロカーボンシティ宣言をするための協議とかが始まるものなんですか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 ゼロカーボンシティの宣言自体は2年ぐらい前から協議はしておりました。ただ、なかなかうちのほうだけで何に取り組むというものが見えてこない事情が2年前はあったんですけども、今、別の民間企業等からも、名前を言えば東京ガスとかからもバックアップ体制ができますよというような心強い提案がありましたので、そういったものを利用しながら取り組んでいきたいというところで、少し期間は空きましたけれども、ここでの宣言に至ったところです。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 先ほどの答弁で、着地点が見えてきたかなというふうにおっしゃっていたと聞こえたんですけども、それは理化学研究所との協議を進める中でというふうに認識していたんですが、今、別の民間メーカーの名前が出てきましたが、そちらのメーカーとの話なのか、理化学研究所との話なのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 理化学研究所は、やはり市内でもかなり多くのCO₂を排出している企業なので、企業としてCO₂排出を目指す、目指さないのところでもまず議論をしていました。和光市としては、なるべく早い段階で宣言をしたいという話をしていく中で、理化学研究所が、じゃ、うちも事業所としてやっていきますということです。あとは、東京ガスのお話というのは、ガスの供給事業者でありますので、たくさんの顧客を持っています。そういったたくさんの顧客が個人であったり企業であったりするんですけども、そういったところにカーボン削減するための呼びかけというのをやっていただいて、我々だけでは行き渡らない部分を少しケアしていただくことになっております。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 今、御答弁で機運醸成とかもサポートしていただけるという話かと思うんですけども、カーボンオフセットかをする場合ですと、やはり他自治体との協働の中で、ほかのEVにしる何にしる原資というか予算組とかも、どうしても環境関係なのでお金がかかるかと思うんですが、そこら辺は今どういった検討をされているのか教えてください。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今、他自治体の取組というのは、主に企画人権課のほうで行っておりますし、

もしEV事業ということであれば、資産戦略課のほうでのお話になります。もちろんまだ協議が進んでいませんので、どの面積をどのくらい森林を維持するために幾ら費用がかかるという試算ができていませんので、この予算が今どこにつくのかというお話もこれからしていくことになると思うんですけども、もちろんそれが環境部署につけてほしいということであれば、令和8年度の予算ということでもうちのほうで計上させていただいて、先ほど連携してやっていく必要もありましたので、EV車両が導入されるときには資産戦略課のほうで計上していただくということで、全庁的な取組でやっていきたいと考えています。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 例えば令和3年、4年、5年とかで和光市がゼロカーボンにするために排出量を削減しなくてはならない量はどのくらいですか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 環境省の公表データですと、今、出ているCO₂の量が30万tとなっております。その中で、家庭部門が10万t、業務その他部門が10万7,000tと出ております。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 今おっしゃった30万tというのは、和光市内のということによろいんですね。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 はい、おっしゃるとおりです。

○安保友博議長 鎌田議員。

○鎌田泰春議員 間違っていたら訂正していただきたいんですけども、数字がまずこういった重さで出ていると思うんですけども、調べた限りでカーボンオフセットの費用というのが1t当たり数千円程度というような試算もあるようなところだと思うんです。今、2050年であったとしても本当に目指すのであれば非常に莫大な金額がかかるようにしか見えないんですけども、それらも踏まえて、本当にゼロカーボンを目指すのか。今見る限り、第4次和光市地球温暖化防止実行計画の取組では、平成27年が基準年になっているんですけども、令和2年度の段階、3年度の段階でも、そのときから比べても150%今増えている状態だと思うんです。これで本当にゼロカーボンシティを目指すとするならば、とんでもない量のカーボンオフセットの費用を予算計上しなければいけない話になって、とんでもない金額を和光市が税金として負担しなければいけないのではないかなと思うんですが、本当にこれを目指すんでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 確かに議員のおっしゃるように、1tの排出量を抑えるのにスギの木を71本植林するとか、そういったデータも出ております。ただ、カーボンオフセット事業は伐採されたところに全て植林するために費用を出すとかということではなくて、その場所が適正に管理されるようにきちんと木々が成長するように下草の処理ですとか、そういったことを維持することでもカーボンオフセット事業というのは成り立っていきます。ですので、荒廃した山をつ

くらないための取組の協力というのができればと思っておりますが、すみません、何分まだそういったところの具体的なお話ができていないものですから、何が幾らぐらいかかるということまでのお話ができない現状ではありますが、今いろいろ出ている国のそういったスギの木71本とかということで丸々試算がされていますけれども、それが費用として全部乗っかるというふうには考えておりませんので、そこまで莫大な費用をかけて、これを成り立てることを目指しているわけではないということを御理解いただければと思います。

○安保友博議長 鎌田議員。

○鎌田泰春議員 まだ何も始まっていない感覚だと私は思っています、そうであるならば、まだ拙速な段階でゼロカーボンと言わずとも、着実に環境省が定めている例えば地球温暖化防止実行計画などをしっかりと達成していくことがまず目下の段階であって、そんな先のゼロカーボンなんて言えるような段階にまだ和光市はなっていないのではないかとこのように正直思います。

今、基準年度の実績よりも150%になってしまっている段階で、まずはその基準年度に戻すのをどうしようかという、そういう積み上げを緻密にしていくべきであって、カーボンオフセットとか、そういった費用が莫大にかかるものを2050年までにそれを踏まえてやりますというのは、あまりにも市民の方からしたときに、ゼロカーボンをやるんだからすごいなと思うかもしれないですけども、実体が伴っていなかったら、それは正直、説明がつかないのではないかとこのように思うんですけども、これ、本当に3月31日に発出しなければいけないものなのか、着実にやっていくことが行政としてはいいのではないかとこのように思うんですけども、そこら辺いかがでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 議員のおっしゃることはよく分かるんですけども、なかなか今までもこういった取組が進んでいかないのもあったところをもってきて、このゼロカーボンを少し起爆剤にしたいということも正直ございます。ですので、何が何でも3月31日なのかと言われれば、確かに着実に積み上げてきた中というのも考えの1つかと思うんですが、環境基本計画で定めている数値目標を達成するための原動力にしていきたいという思いがあるのですが、そういったところで御理解いただければと思います。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 市内でもこのゼロカーボンシティの取組にどこまでしているか私も分からないところもあるんですが、市内で緑地保全とか大坂ふれあいの土地を買われたり、いろいろな環境整備をされていると思います。そういう活動とかをされている方からも、この取組が、今説明を聞いてしまうと理解を得られるのかなという気もしたのですが、やはりまずは、市内でさらに環境を整えていくほうが市民の理解を得られるのではないかとこのように思うんですが、その辺について考えがありましたらお聞かせください。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 市内で活動されている方々に対し、丁寧に説明した上でこの宣言をするということには今至ってはいませんが、市としてきちんと方向性というか、こういった確かにかなえられない目標なのかもしれないんですけども、大きな目標というか、国・県で進めている事業に市としてもきちんと方向性を見いだしてやっていきたいという思いを表面化させることで、そういった活動をされている方々への補助なり援助なりということはきちんとしていきたいですし、もちろんその方たちの活動もより活発にしていってもらいたいという思いもありますので、ゼロカーボンの宣言自体が先に行ったとしても、そこは考えの中では決して間違っている順序ではないのかなというふうには思っております。

○安保友博議長 吉田議員。

○吉田活世議員 この間、衆議院選を闘ったときに、日本共産党は市民アンケートを取っているんですけども、シールアンケートでやってきました。そのときに項目として挙げたのが、市民の人と対話をするときに、あなたの今気になっている政治トピックスは何ですかというので9項目聞いたんですけども、気候変動のところは平和問題と並んで非常に市民の方の反応がかなり高くついたところなんですね。特に若い世代の人に自分は気候変動を止めるために何かしたいんだということをおっしゃられました。今後この宣言をした後の話なんですけれども、市民の方と何か連携を取っていくとか、何か周知のときにこういうことをやっていこうとかというので、決まっていることなどございますか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 すみません、今の段階で具体的に何か決まっているものはございません。ただ、この事業を加速させるためには、もちろん市役所だけで行ってもしょうがないですし、先ほどお話した理化学研究所だけで行ってもしょうがないと思っていますので、市民の方々の協力を得るために、そういった呼びかけ等も積極的に行って、先ほど渡邊議員からもありましたけれども、活動されている団体の方々の活動がより広がったりとか、他団体で若い方たちへの呼びかけ等もしていくということであれば、そういったことも精力的に取り組んでいきたいというふうには考えております。

○安保友博議長 吉田議員。

○吉田活世議員 パリ協定でも出ていますが、産業革命前と比べて気温の上昇を1.5度C以内に収めるということなんですけれども、やはりCO₂だけではなくて、温室効果ガスを排出しながら経済成長をするパターンというのがずっと続いてきて、それから脱却していくということは本当に大きな大きな挑戦だと思うので、ぜひ市民参加型とかで、学習会もそうですし、活発にやっていていただきたいと要望いたします。

○安保友博議長 富澤議員。

○富澤啓二議員 この2050年ゼロカーボンシティに関しては、当時の菅首相が施策として進めた国策であると思います。表現方法について伺いますが、幾つかあると思うんです。定例の記者会見、議会、報道機関へのリリース、ホームページに載せる等、どういう方法で周知をする

のか伺います。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今考えておりますのは、県内でも大分遅い順位での発表になっていきますので、今の段階ではプレスリリースは考えておりません。ですのでホームページなり、今広報の4月号に掲載を予定しておりますので、4月号では予告編みたいな小さい枠ではありますが、きちんとした広報とホームページ、これは告示行為も行いましたので、告示によって周知という形を取らせていただいております。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 宣言の出し方だけでも、その前に和光市は市民参加条例というのがあって、こども計画もそうですけれども、こういうのをやりたい、こういう案があるんだよとワークショップをして、アンケートをとって、ある程度やったらパブリックコメントをとって。これも計画、今日の話だけだね。また、2年前は平和宣言、いきなり平和宣言をつくる。それで9歳から90歳の市民が集まって平和というのは何なのかとか議論しながらいろいろなキーワードを出して来てる人が皆マークして、どうするかやった。それは平和宣言も埼玉県で一番最後で、アンカーなんだよね。だけれども、市民がつくったということでは、要はトップダウンでやっているんですね。そういう意味で、最後だったけれども、価値があるわけですよ。だから、執行部がぽんとつくっちゃったら、環境づくり市民会議もあるし、それを核にしてカーボンシティ、要するにさっきの地球温暖化についてみんなと議論する場をつくるとか、そういうのを経て最終的にここへ来ればいいんでしょうけれども、それを経ずに、カーボンというだけでも意味分からない人がいるし、ゼロって何だとかね。ゼロにするのは本当に難しいんです、何でも。交通事故をゼロにしてもならないし。だからいきなり出すのもいい、そういう方法もあるかもわからないけれども、和光市はこういう方法で宣言するのは、市民参加条例からいっても、市民もやってやったのかってなる。もちろんやれるけれども、やはりそういうのを経たほうが市民に行き渡って、協力するのではないかなと思いますけれども、もちろんボランティア団体は緑を増やそう、木を植えようと一生懸命やっているんだけど、いきなり市が木を切ったりして痛い目に合ってるわけです。それは本当に掲げてそういうことができるのかどうかという疑問を持ちちゃうよね。市が実際にそういうふうには動いていない。だから、議論の場、ワークショップをする。言葉ができたならこれすぐに何をしようかと小さい子供から皆でやって。そうしたら動くと思う。そういうところを経てやるのが和光市なんだよね。朝霞市には市民参加条例がないですよ。トップダウンでやってたんです。向こうの人はそれに一生懸命対抗して対応している。

私はそういうことを経ないと、和光市らしさでない気がする。ちょっときついことを言うかも知れないけれども、これはまだ(案)、和光市子ども計画は(案)ですけれども、宣言といたらぼんだからね。皆でやって決まったらぼんとやるとかね。ゼロは難しいですよ。いかがでしょうか。

市民参加をしてやっていったほうがいいのではないのでしょうか。

せめて環境づくり市民会議の人たちだけでも。緑地計画もあれも全部そう、市民でつくってきてるんでしょ、環境基本計画の最初は。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 議員おっしゃるように、環境づくり市民会議等でゆっくりもんでというお話もあるんですが、市民会議のほうも固定化されたメンバーでなかなか広がっていかないというところもございますので、こういった事業で例えば民間事業者からの活力を得た上で、もうちょっと幅広い世代に幅広く声かけをして、勉強会等をした上でということができると思っていますので、逆にこの宣言をすることで、そういったところの協力企業からの援助を受けられるものですから、順序は逆になるかもしれませんが、この宣言ありきの上で、今までの市民団体だけではなく、新たな団体の立ち上げ等も含めたものを市の力だけではなくて、バックアップしてってくれる業者とともにできたらいいなというふうには考えているところで

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 このゼロカーボンシティ宣言が出るに当たって、どういう協議をされてきたのか、その経緯をもう一度聞かせていただけないでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 経緯は、もちろん温暖化対策ですので、少しでも早い段階でできたらいいなというような思いがありました。ただ、なかなかそういった、先ほどお名前を出させていただきました理化学研究所とどういうふうに取り組んでいきたいのかということの方向性が出てこなかったのも事実ですし、今までこういったことの勉強をここ何年か、そういった民間企業の勉強会等も行かせていただいて、バックアップしてしてくれるような事業者があるかということも勉強はしてきました。そういったものがあるのであれば、宣言をした上でそういった企業からの協力も得ながら、取組を加速していけるのではないかなというふうな、我々サイドの話ですけども、少し自信になりましたので、こういった経緯で提出をさせていただいております。

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 その経緯があって、政策会議等で部長間の中での協議というのは行われたんですか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 すみません。政策会議では、この話は諮られてはいないんですけれども、起案の合議として関係部署の部長の決裁はいただいております。

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 何となく話が今までもちょっとぼんやりしたような感じに聞こえるんですけども、まず、施政方針にこの件が上がってきていなくて、最近で何で決まったのかが疑問なんですけれども、その点について伺います。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 実際、多量のCO₂排出事業者である理化学研究所のほうとの話合いで、この年度内に本当は共同で宣言をしようかというような話もあったんですが、なかなか共同で宣言するまでに、お互いが何をできるんだという持ちネタの出し合いがなかなかなくて、ただ、理化学研究所も大量にCO₂を排出するのは分かっている、市としても家庭内ですとかそういった取組をきちんと加速させないといけないのも分かっているというところで、具体的な事案をどうするというのは、新年度への持越しにはなっているんですけども、そういったこともあって、やりたいという思いはあったんですけども、具体的な策が固まらない中で、でも宣言はしたいと。そして、そこからもう一步を踏み出していきたいというような思いの中で、確かに施政方針の中でも当然入れるべきだったと思いますし、そこで具体策ができていようであれば入れたかったところではあるんですけども、その経過を経ずに、今このような状況になっております。

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 分かりました。施政方針にも本当は載せたかった。さっきは広報とかに載せていくというようなことでしたけれども、施政方針に載せられないものを広報で周知していくというのは、何となくその辺が、本来であれば、施政方針に載せられなかった市長の思いとかというのもこちらで聞いたかったのが事実なんですけれども、その辺がちょっと順番が違うようになっているのではないかという点については、再度伺ってもよろしいでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 やはり今、組織の中の話をしてしまうと、理化学研究所のほうで地球温暖化対策室というのがあるんですけども、そこが今年度いっぱい解体されるというお話で、別の部署に入ってしまうということもあって、それは向こうの組織改正の中で、もちろんその事業自体はきちんと施設部というところに引き継がれてはいくんですけども、ここ2年ぐらいずっとその部署ともお話ししてきたんですが、一番窓口になっていたお話ができる部門が解体してしまう前に形としてきちんと残して、別にそれは理化学研究所のためだけにやることではないので、市としてもこの宣言をすることで、きちんと加速していけるものを新年度に出していければということで、確かに政策会議等できちんとお話ができなかったというの、うちの課で単独でいろいろな課との調整はしてきていまして、これならいけるというような手応えもありましたので、こういった状況での宣言となっております。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 ちょっとまた聞きたいことがあるんですけども、ゼロカーボンシティ宣言の最後に、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めていくことと宣言されています。単純に森林が多い、少ないというのはゼロカーボンに、最短でいくとももちろん言わないんですけども、和光市のここ数年の政策というか事業のやり方として、公共交通の路線沿いとか市内の街路樹とかを伐採するやり方をされていたと思うんですけども、その過去の事業と今回のゼロカー

ボンシティってちょっと相反するのかなというのを私は個人的に思ってしまったんですけども、そこら辺の見解、市はどう思っているのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 確かに、市内でそういった街路樹の伐採等も行われていたのは事実でございます。ただ、またこれから新しい話にはなりますけれども、再三、理化学研究所の名前を出して申し訳ないのですが、あちらが税務大学の前の国有地を買われて、そこから樹林公園に向けた新たなグリーンロードというものをつくってもらえるというお話も聞いております。ですので、もちろん伐採された木もありますけれども、きちんとそういった市としては緑を増やして行って、そこも市民に開放されるようなグリーンロードになるというようなお話も聞いておりますので、緑を市内でも残していけるような取組というのは、考えてはおります。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 今のグリーンロードですけれども、理化学研究所のほうが主体的に進める事業なんですか。それとも市も共同的に関わって進める事業なんですか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 理化学研究所のほうで建物を建てて、その前を憩いの広場というか憩いの道にしてというような話ですので、事業の主体は理化学研究所です。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 今、渡邊議員が外環側道の木を切って、私も加山さんが部長でいたときに切って、緑被率が落ちた分は何かで補てんしていただけますねと言ったら、はいという返事はもらっているんです。それは、和光市の中にあるふれあいの森の借地を将来残せるようにしてほしいということで、そういう話はしているんです。1つは白子大坂は買っていただいて、それだけでは足りないから新倉ふれあいの森とかまだ残っているところもあるんですけれども、そういうので切った分は補てんするというんでしょうけれども、そういう話にはなっているはずなんです。部長。

○安保友博議長 加山市民環境部長。

○加山市民環境部長 以前いた部署では確かにそういう話をしました。今回も宣言をしたからといって、緑地を絶対に切らないということではなくて、やはりそれぞれの公共施設の特徴があって、例えば道路の機能が上げられるようであるならば、それは選択にはなるとは思いますけれども、やはりそういう適材適所があると思っていますので、公共施設、道路として機能が必要であるならば、やはりそこは切らざるを得ないという選択をせざるを得ないところが出てくるとは思います。

ただ、今、赤松議員からもお話があったように、その部分をきちんと市内の、今ふれあいの森を中心に緑地を確保していくとか、新たなところで道路脇に植樹をしていくとか、それは当然やっていくべきことだというふうには思っております。

○安保友博議長 休憩します。（午後2時48分 休憩）

再開します。（午後3時00分 再開）

小嶋議員。

○小嶋智子議員 宣言をされるということは分かったんですけども、宣言したからには取組が大変大切だと思っております。特にこの宣言の中には、明確に2050年までにゼロカーボンシティを目指す。取組を進めていくことを宣言するものでありますので、その取組というのは重要であると思うんです。しかし、今お話を伺っておりますと、なかなか具体的に示されてこなかったかなと思います。これを起爆剤にして加速させていきたいということであれば、何をどのように加速させて、どのくらい減らしていく、そういった何か見込みとか、そういったものが示されてくるのかなと思ったんですが、何もない状況で宣言をするというふうになるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今の段階では、令和7年でできることとして、家庭用の省エネ家電の補助等はやっていきたいと考えております。もちろんこれから宣言した後に、市民の方たちからの御意見等も聴取しながら、どういった取組をどのような時期にやっていけるのかということも明確にしていきたいと思っております。どこまでどういう取組が市民の人たち、事業者の方たちにできるのかということ、本当に令和7年度中にはきちんと方向性を出して、2050年といってもそれほど先の未来ではありませんので、そこまでの実現というのは、本当に皆さんがもおっしゃるように難しいものであるというのは承知の上ですので、覚悟を持って取り組む上でも、令和7年度中にはきちんとした方向性を出せるように、また、取組ができた際にはこういった御報告ができるようにしたいと思っております。

○安保友博議長 小嶋議員。

○小嶋智子議員 そういたしますと、本当は方向性の先に宣言があって、宣言というのは、順番的にはそうなのかなと思いますが逆で、宣言をしてから方向性を出していくということになるということですが、宣言の中で今お話が出てきた市民、事業者、行政が一体となってというふうになっているんですが、今お話を聞いていたら、市民の方や事業者の方が意見交換などをされていないのかなというのはちょっと感じたんですね。それは全然しないままだったのかどうかということと、それから一体となるというのは、どのように一体となるようにされていくのかという、この2点伺いたいと思っております。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 事業者が確かに今一体となって、先に宣言をすることによって、国からのそういった補助等も、うちのほうが業務委託に出した際に補助を受けたりとかで優遇されるようになります。ですので、今確かにそういった取組がされていない中で宣言はするんですけども、逆に宣言をすることで、お金のかかる業務委託等が発生した場合にも、そういった補助を優遇的に受けられるようになります。

ただ、先ほどから話している東京ガスに関しましては、別に業務委託料を必要とせずにはバッ

クアップ体制をしてくれるというお話ももらっていますし、向こうで環境事業として取り組んでいるものの中で、子供たちへの環境学習とか、あとはもちろん市民の方へ環境学習の講座ということもやっていただけるというようなお話も伺っておりますので、そういった周知をしながら、市民、事業者、市と一体となってやっていきたいと考えております。

○安保友博議長 小嶋議員。

○小嶋智子議員 今、子供たちや市民への環境学習や講座などという話、バックアップというお話ですが、ほかに何かバックアップの内容というのはあるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 今はそういった環境学習等の講座を行うという意味では、理化学研究所のほうからもそういったお話が出ておりますので、まだ具体的にどの世代に向けたどういった講座かというお話までは詰められていませんけれども、そういった際の講師の派遣とかは協力いただけるというお話は伺っております。

○安保友博議長 小嶋議員。

○小嶋智子議員 今、国の補助が受けられるということでしたが、宣言するだけで国の補助が受けられるということになるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 宣言をすることで、国の補助を受けやすくなるという、受けられるかどうかというのは、どうしても全国から手が挙がると思いますので、その中での取り合いになるのかなど。選考基準が分からないので何とも言えないんですけども、ただ、この1回宣言を出さないことには、なかなかそういった優先順位の中にも入っていけないというのが現状であります。

○安保友博議長 小嶋議員。

○小嶋智子議員 選考基準もまだ分からないということでしたけれども、そうすると、そういったものもきちんと調べて、こういった取組をすればそういった国の補助も受けやすくなるというようなことも分かった上で宣言というのが順番なのかなと思ったんですが、そういったことはこれから調べて、それに合った取組をしていくということになるのでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 宣言をした後に、こういった国の補助というのは環境省のページを見るだけでも30以上の補助事業があります。ですので、その中で、業務委託に関する、そういった機運醸成のための業務委託なんかをする場合に、補助メニューというのでも調べてはありますので、そういったところに手を挙げていきたいと考えております。

○安保友博議長 富澤議員。

○富澤啓二議員 ぜひ先進的取組をお願いしたいと思っております。環境省は全国100か所以上を選考地域に指定する方針ということですので、さきの部長が1,127自治体が今宣言をされていると言いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。先ほどの予算の中に、令和6年

度で環境省が地域脱炭素移行・再エネ推進交付金が約420億円ぐらい盛り込まれております。最大で75%補助するということですので、また専門人材を自治体に派遣する事業を創設されていますので、ぜひ宣言をするのですから、一歩でも近づけるように頑張ってください。要望でいいです。

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 先ほど小嶋議員からの質問の御答弁の中で、宣言を出してから取組事項とかを決めていくというお話でしたけれども、他市の宣言を見ても、やはり重点取組事項1、何々って書かれているんです。あと、文面の中でも、市民からこういう声が寄せられて、和光市はそういう方向性で目指していくとか、これまで全員協議会でこれだけ議員の方々からいろいろな意見が出て、変な話、これ議決事項ではないので、これだけ意見が出ているのに、そのままもう広報に載せますとかではなくて、もう一度考え直すというか、例えば政策会議の中で、やはり部長間での協議がなかったようですので、協議をしていくということは考えられないのかお聞きいたします。

○安保友博議長 加山市民環境部長。

○加山市民環境部長 政策会議にかけるというのも1つの手段だとは思いますが、あくまで起案の中で全部長に説明をさせていただいた中で、合議をいただいておりますので、基本的にはあくまで宣言は予定どおりさせていただきたいというふうに考えております。

これは宣言ですので、脱炭素社会に向けた取組を進めていくということを宣言するものでございます。先ほど来、環境課長からもお話をさせていただいておりますけれども、あくまでもこれから市がこういう姿勢を持って取り組んで今後事業を進めていくんだということの宣言です。これを筆頭に来年度具体的にどのようなメニュー立てをしていくのかというのを先ほど来からいろいろな御意見をいただいておりますように、市民参加をしっかりとしていく、それが環境審議会であったりとか、環境づくり市民会議であるとか、和光市地球温暖化対策委員会というのがあります。

その中に当然市民の皆さんも入っていただいておりますので、そういうしっかりとした会議体が存在していますので、その会議体で議論することはもとより、またそれ以外にも、どういう形で市民参加をしていただいたらいいのかというのを、まだ明確にこういう形でやっていきますということは現段階では申し上げられる状態ではありませんけれども、しっかりつくった上で、方向性というか、何を実際にやっていくのか、どういう形で緑を守っていくのかということも含めて、しっかりと議論し、事業をこういう形で進めていくというのをまた皆さんに御説明した上で、必要な予算についてはしっかりと説明した上で御審議いただいて、実際に実行メニューを決めていきたいと考えておりますので、あくまでも今回宣言ですので、そういう姿勢でしっかりと、ゼロというのは非常に難しいんですけれども、環境基本計画にも一定程度の二酸化炭素を減らすとかというのがありますけれども、その部分でしっかりと宣言することによって、より市民に方向性を示していく、機運醸成を高めるためにも、この宣言というのは非常

に必要なものだと考えておりますので、具体的なことを申し上げられずに大変申し訳ありませんけれども、それはしっかりと宣言をした後に議論して、市民の意見もしっかり聞いて、何をやっていくかを決めていきたいと考えています。

○安保友博議長 松永議員。

○松永靖恵議員 本来は、議論したものをまとめて宣言の中に載せていくのが一番いいと思うんです。他市のものとか見ると、かなり中身が濃いんです。何でこんなに焦って出されるのかというのがちょっと疑問なんですけれども、中身についてはもう少し奥深い内容にするとか、ほかの自治体がもう宣言を出されている中、和光市が遅いというようなこともお話しされていましたけれども、だからこそ中身の濃い内容を作成するのが一番いいのかなと思うんですけれども、再度伺ってもよろしいでしょうか。

○安保友博議長 加山市民環境部長。

○加山市民環境部長 今回、具体的な内容を書くことはできませんでしたが、タイミング的に、この環境基本計画の中間見直しがございますので、宣言を受けて、具体的なものを基本計画、しっかりと上位計画の中に書き込んだものにしていきたいと考えております。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 事業者、理化学研究所、すばらしいドクターがいっぱいいるから、良い案があると思うんですけども、もう一つ、民間の本田とか素晴らしく取り組んでいるから、そういうところを書ければ小さい子供への環境、要するに教育の仕方とかいっぱい持っています。だから応援じゃないけれど、そういうのに本田が働きかけたことはありますか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 本田の方は環境審議会の委員にも入られておりますし、そのほかに庁用車のEV車両化というところで、資産戦略課が窓口になっておりますけれども、そういったところで本田のほうとはアプローチはしておりますので、そういったところとの取組と連携を深めていければと思っています。

○安保友博議長 赤松議員。

○赤松祐造議員 特に、環境課は人数が少ないですから、市民啓発について彼らもいろいろ持っているから教えてくれると思うんですよ。そういうものも一緒にやっていければいいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 そういった協力してくださる企業があれば、活用できるものをきちんと活用していきたいと思います。

○安保友博議長 菅原議員。

○菅原満議員 いろいろ御意見が出ているわけですがけれども、先ほど来伺っていると、やはり市内事業者との調整だとか、具体的な取組を行っていくということであるならば、まず宣言があって、具体的な取組をそれに基づいてどう構築していくかという、ゼロカーボンに関しては、

実行計画を定めるということでたしか法律で定められていたのではないかなというふうに記憶しているんですけども、そういったことでいくと、今現在の市の事業者としての実行計画、そして市全体としての取組というものを考えていく上でのゼロカーボンシティ宣言を行い、市民の方、事業者の方に理解を求めて、具体的な法に基づく実行計画に取り組んでいくと。その際には、当然いろいろな審議会とか市民団体、あるいは事業者、市民から話を聞いて、具体的な計画を立てていく形を取っていくと。その中で、ゼロカーボンシティ宣言をして取り組んでいますよということで行くならば、宣言をして具体的な取組を進めていくということは、1つ重要なことなのかなというふうに私は考えます。

前段で具体的にどうするんだとか、ゼロカーボンが実現できるのかということで行くと、それを計算していかなければいけないと、その間にもどんどん人間の活動だとか事業活動だとか進んでいくことを考えるならば、和光市は宣言をしています、それについて取組を進めていきます、事業者として和光市は温暖化実行計画に基づいて削減目標を掲げて取り組んでいますと。なかなか厳しい状況があるのかなのか別として。それを基に実行計画、法に基づく実行計画も当然つくっていくと。それを具体的に具現化していくというか、そういったことが必要なのではないかなと思いますけれども、改めてその辺について伺います。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 議員おっしゃるように、今ある和光市環境基本計画の中では、削減目標もまだ30%というような位置づけにもなっていますし、こういったことの見直しを宣言後にきちんと進めて、一番最初に御説明しましたけれども、令和8年度の間見直しに向けたプロセスの中で、意見募集をした上で、この削減目標をきちんとゼロにするという削減目標に変えていくとかというふうなことを計画の中でも盛り込んでいきたいと思っております。

○安保友博議長 渡邊議員。

○渡邊竜幸議員 今回の答弁を聞かせていただきまして、2021年3月に閣議決定されたそうなんですけれども、今までの説明を聞いた限りですと、であれば、やはり早急に和光市も他自治体に倣ってゼロカーボンシティ宣言をされて、それで動きながらどういうふうな計画をすればいいかというふうにやっていたらよかったのかなというふうにも感じた次第なんですけど、今までのやり取りを聞いた上で、これから宣言しようとする中での市の考えを改めてお聞かせいただけますか。

○安保友博議長 福島環境課長。

○福島環境課長 確かに閣議決定がされた後、直ちにとというのが一番よかったのかもしれません。ただ、基本計画自体が令和2年に見直しをされて、少しその行く末を、見据えていたわけでもないんですけども、その中で、やはり国が示されているデータ等を見ても、CO₂の削減が進んでいないなというような実態が見えて、今、令和3年度のデータではありますけれども、そういったものが見えてきていますので、そこら辺を見ながら、焦っているという言い方は変ですけども、このままではいけないなというところなのでこ入れという意味で、こういっ

た宣言をした上で、取組をより推進していきたいと考えております。

○安保友博議長 ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」という声あり〕

なければ、以上にて質疑を終結します。

休憩します。（午後 3時24分 休憩）

再開します。（午後 3時25分 再開）

以上で本日の協議事項は全て終了しました。

記録につきましては、正副議長に一任願います。

以上で全員協議会を閉会します。

午後 3時25分 閉会

議 長 安 保 友 博

副 議 長 小 嶋 智 子